

歴史は未来の羅針盤



これまで刊行しました、『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第八巻「史料編」は、教育委員会や各公民館などにおいて、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜひともお買い求めください。

皆さんは「日野の町並みの特徴はなんですか？」と聞かれたら、正しく答えられますか。今回は日野の町並みの特徴について、紹介したいと思います。

## 日野の町並みの特徴

日野の町並みを構成する建物は「町屋」に分類されます。町屋とは伝統的な木造建築であることはもちろんですが、建物が道路に面し、隣家の建物と接する側面の全面が壁になっていることが、その基準とされています。

屋根の構造は切妻造、棧瓦葺で、一階建ての平屋か、低二階または中二階が一般的です。そして、棟が道路と平行し、軒先を正面に見せる「平入り」形式です。

外壁は、柱が壁の表面に露出する「真壁造」を基本としますが、二階部分では柱を漆喰で塗り込める「大壁造」も見られます。後者の場合、柱だけでなく軒下の垂木まで

も塗り込めることがあり、防火機能求められる城下町の建築的特徴だともいわれています。

日野の町並みの大きな外観的特徴として、板塀があります。主屋が道路から少し後退して建ち、その前面には塀があります。特に、長い塀と門を構え、「見越しの松」に象徴される前栽を伴う日野商人の本宅の外観には、城下町の武家屋敷的な特徴も見られます。

主屋内部は、四室が田の字型に



▲日野の町屋の特徴をよく表す大窪の町並み (平成19年撮影)

並ぶ間取りを基本とし、農家住宅に特徴的な間取りです。また、間口に対して奥行が長い長方形の屋敷地や、道路と裏庭を結ぶ「通りにわ」的な土間は、町屋の性格が強く出ています。

したがって、日野の町屋は、農家住宅的な間取りでありながら、一般的な町屋形式の屋敷構えで、特に日野商人の本宅では武家屋敷の要素も認められるといえます。そして、屋根と軒が道路に沿って連なり、平屋が多いこともあいつて、水平的に低く広がるのが日野の町並みだといえます。

## 日野独特の棧敷窓

日野の町並みに見られる大きな特徴が棧敷窓です。棧敷窓は、板塀や土塀を切り込み、脱着式の窓をはめ込んだ開口部のことです。

日野では、塀や前栽を設けて主屋を建てるため、前栽の緑や主屋の屋根を背景とした塀の存在が、

重要な景観の構成要素となっています。日野の町並みは、普段は板塀が連続する落ち着いた雰囲気ですが、日野祭の日には開け放たれた棧敷窓が緋色の毛氈で飾られ、華やいだ景観に一変します。

この棧敷窓は、他に類例がなく日野独特といわれています。日野の町並みに溶け込んでいるため、かなり昔からあったように思えますが、一般的に普及したのは大正末年から昭和初年にかけての比較的新しい時期だと推定されています。

五月三日は日野祭。渡御行列や曳山巡行があり、また恒例となりました棧敷窓アートも同時開催されます。日野の町中は年々観光客が多く訪れるようになり、活気あふれる一日となっています。

日野の町中を散策しながら、古式豊かな神調社、豪華絢爛な曳山など日野の歴史を目の当たりにし、個性あふれる現代アートと接し、郷土を代表する食を味わい、日野のおもてなしの心を感じる。これらを楽しむ背景として日野の町並みがあります。普段見慣れた風景ですが、これが大きく様変わりすれば、日野祭も棧敷窓アートも雰囲気損なわれてしまいます。